

伊勢湾周辺の底魚資源を合理的に利用する新漁業生産技術の開発

漁業生産工学部 漁法研究室

協力機関: 愛知県水産試験場, ニチモウ株式会社, 東京海洋大学

背景

- ・ 伊勢湾周辺の小型底びき網漁業では, 主対象種のシャコやマアナゴの資源が減少している。
- ・ 底びき網が海底を擾乱することの影響が近年広く指摘されている。
- ・ シャコやアナゴの保護による損失を, 新たな対象種の開発で補償できるような方策が必要である。

研究方法

- ・ 模型実験や実物実験および数値計算により, 対象とする小型底びき網漁船で使用可能で, 曳網層を変更できるトロール漁具を開発する。そして, 漁業者らがこの漁具の曳網水深を自由に制御することができるマニュアルを作成する。
- ・ 漁獲資料の分析や GPS ロガーによる操業位置計測などから, 新漁業生産技術が活用できる時期と場所を検討し, 資源保護と漁家経営を同時に成立させるための操業計画を明らかにする。

研究成果

- ・ 離着底兼用トロール網(図1A)とこれに対応した新型開口板(図1B)を開発した。これらの新型漁具の実物を製作して曳網実験を行った結果, 従来の網の高さ(約1.5m)と比較して, 着底曳網時に約1.8倍(2.7m), 離底曳網時に2.7倍(4.1m)とできることを確認した。
- ・ スズキ, イボダイ, マアジ, サバフグなど, 新型漁具の対象となる種の漁期・漁場を確認した。(図2)

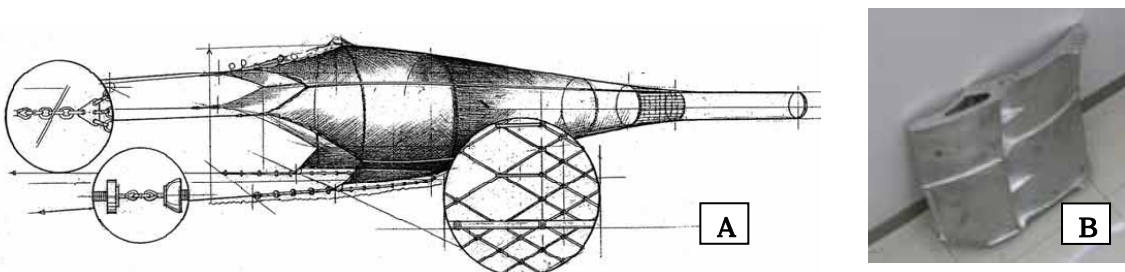


図1. 伊勢湾周辺の小型底びき網漁業用に開発した離着底兼用トロール漁具

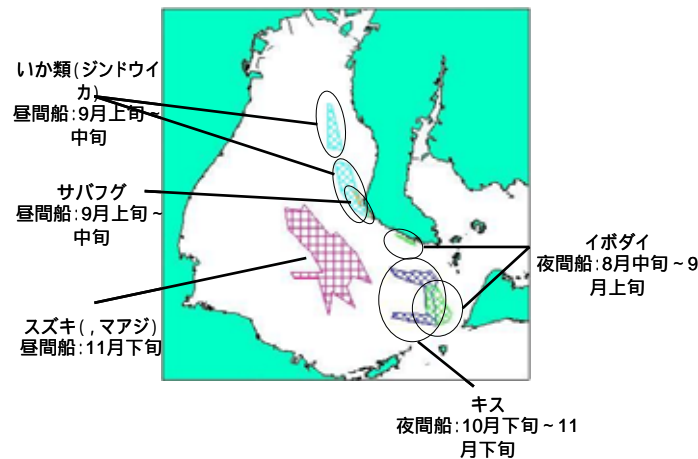


図2. 新型漁具の対象となる生物の漁期と漁場